

事業案内

2025(令和 7)年度事業報告

2026(令和 8)年度事業計画



社会福祉法人
千葉いのちの電話

24時間年中無休
相談電話 043-227-3900

CONTENTS

ごあいさつ	1
千葉いのちの電話の理念	2
2025（令和7）年度事業報告	3
I. 相談事業報告	
(1) 電話相談事業	3
(2) 電話相談概況	5
(3)ー1 インターネット相談事業（メール相談）	8
(3)ー2 インターネット相談事業（LINE相談）	9
(4) 対面相談事業	10
(5) 自死遺族支援事業	12
II. 養成と研修	14
III. 活動報告	15
IV. 他機関との連携	17
2025（令和7）年度 決算報告	18
2026（令和8）年度 事業計画基本方針	21
2026（令和8）年度 事業目標	21
千葉県いのちの電話協会	22
役員名簿	23
千葉いのちの電話役員名簿	
研修専門家部会名簿	
千葉県いのちの電話協会役員名簿	

ご支援のお願い

ごあいさつ



社会福祉法人 千葉いのちの電話

理事長 友田 直人

2025（令和7）年度も幅広い県民の皆様のご支援を賜り、ここに千葉いのちの電話の事業報告並びに2026（令和8）年度の事業計画をご報告できますことを深く感謝申し上げます。

昨年度の統計ではようやく年間の自殺者数が2万人を切り、集計開始以来最低となったことは関係の機関、皆様のご努力の結果だと思えます。しかるに一方で小中高生の自殺者数が538名と過去最高となったこと、少子化を考慮すると率では更に悪化していること、この点は自殺予防に携わる私たちにも突き付けられています。「なんとかしなければ」などと言っていない状況ではないでしょうか。今、多くの相談機関が開設され、無償有償を問わず多くのボランティアさんや職員さんがこの問題に向き合っておられます。相対的に「いのちの電話」の存在が小さくなることはやむを得ないとしても、「いのちの電話」でしかできない若年層への取り組みは何かあるのか、真剣に考えてゆきたいと思えます。従来からの「電話相談」が基本にあることは勿論ですが、相談員の高齢化や減少を踏まえ、若年層の方々の相談員への取り込みなど、他のセンターでも事例があれば是非情報交換させていただきたいと思えます。

千葉では、電話相談のほかにも、対面相談・インターネット相談・自死遺族支援活動を始めて20年弱になります。多様な手段で相談者の選択肢を増やすことの検討は、いのちの電話の将来の存在意義にもつながる重要なことではないでしょうか。この考えから昨年度はLINEによるSNS相談も開始しました。相談者の年齢層は20～30年代が中心になり、若年層への浸透を今後も図って参ります。

ボランティア相談員は、昨年新たに17人が仲間に加わりました。宿泊研修に始まり、多くのロールプレイとその後のインターンを経て認定された皆さんにはご苦労をおかけしますが、是非長く続けて頂くことを望んでいます。最近の傾向として比較的若い方やお仕事を持ちながら余暇を社会や人のために役立てたいという方々が増えています。地味ではありますが、自殺予防という大切な活動にボランティアとして志願されようとのお志には頭が下がる思いです。

一方今年度は第37期養成講座を10月より開始します。過去2期は研修期間を1年間としましたが、1年6か月に戻しました。研修スタッフの減少や効率等から判断したのですが、ある意味で熟成期間も成長には必要との検証を得ました。しかし社会の変革も進み、一方でヒト・カネ・モノなどのインフラソースの変容にも対応せねばならず、多面的な挑戦は必要になるでしょう。

財政面におきましても、県民・企業・団体の皆様からのあたたかい支援を賜り、特に匿名の方からの浄財をお寄せ頂き、健全な財政運営が出来ますことに對して改めて深く感謝申し上げます。

今年度も、私たち相談員一人ひとり、様々な問題をかかえ生きることの苦悩する人に寄り添い、傾聴と共感で応える、という基本理念を常に忘れず、地道に相談活動に全力を尽くしながら、変化する時代の要請に応えることを目指し、社会へ貢献して参りたいと存じます。

引き続き千葉いのちの電話に対するさらなるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

千葉いのちの電話の理念

千葉いのちの電話はかかわりを求め、なんとか対処しようと苦悩している人たちに「私たちがここにいるよ」と表明し、寄り添いかかわりを求められる存在でありたいと望んでいます。そのために傾聴を基本の姿勢として、時には自殺まで思うほどの精神的危機にある人に寄り添い、対等な人間としてかかわりを持ち支え合う相談活動をしています。また、使命の大きな柱である自殺予防のため、裾野の広い自殺予防活動を行います。

相談援助活動の4本の柱

電話相談

043-227-3900
24時間365日
年中無休

わかちあいの会
-自殺遺族支援-

対面相談

-こころの相談室-
予約専用電話
043-222-4331

インターネット
相談

◆千葉いのちの電話の歩み

- ・ 1988年 1 月 設立準備委員会発足
- ・ 1989年10月 1 日 千葉いのちの電話開局
- ・ 1990年10月20日 千葉県いのちの電話協会発足
- ・ 1993年12月28日 社会福祉法人設立認可
- ・ 2001年 6 月13日～16日 第22回いのちの電話相談員全国研修千葉大会・第10回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議開催
- ・ 2005年10月 千葉市社会福祉功労表彰
- ・ 2006年11月 自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」を開始
- ・ 2007年 6 月 1 日 新会館（CIDビル）に移転
- ・ 2008年 7 月 インターネット相談開始
- ・ 2009年 4 月 対面相談開始
- ・ 2009年11月 千葉日報社会福祉賞受賞
- ・ 2010年10月 社会貢献者表彰
- ・ 2011年 3 月～2013年 9 月26日 「震災ダイヤル」参加
- ・ 2013年 3 月 「ナビダイヤル」参加
- ・ 2013年12月25日 千葉県社会福祉賞受賞
- ・ 2014年 9 月27日 厚生労働大臣表彰
- ・ 2014年10月 1 日 開局25周年記念式典
- ・ 2015年 9 月30日 千葉県いのちの電話協会25周年記念式典
- ・ 2019年10月 1 日 開局30周年記念式典
- ・ 2020年 6 月 コロナ禍対応「毎日フリーダイヤル」参加
- ・ 2022年 6 月 千葉市地域社会貢献者褒賞を相談員が受ける
- ・ 2023年11月 秋期善行表彰
- ・ 2024年10月26日 開局35周年記念式典
- ・ 2025年 4 月 1 日 LINE相談開始

社会福祉法人 千葉いのちの電話 概況

(2026年4月1日現在)

【設 立】1989年10月 1 日

【法人認可】1993年12月28日

【組 織】理事：9名 監事：2名 評議員：16名 後援会役員：14名 監事：1名

【認定者累計】1,289名 【実動相談員数】195名 【活動ボランティア数】14名

2025（令和7）年度事業報告

（2025年4月1日～2026年3月31日）

はじめに

福祉サービスの提供として精神的危機に直面し、援助と励ましを求めている人びとと、主に電話という手段で対話し、健全な社会人として生活することが出来るよう援助し、その他にこれに関連するサービスを提供し、もって社会福祉の増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

定款（目的）第1条

この一文は、千葉いのちの電話の活動の使命や理念を表わし、定款の第1条に掲げています。私たちはこの目的の実現のために市民運動のボランティア組織ではありますが、責任ある組織として活動を継続して参りました。2025（令和7）年度の電話相談・自死遺族支援・対面相談・インターネット相談（メール相談・LINE相談）の4相談事業の活動の概要を中心に、ここにご報告させていただきます。

I 相談事業報告（2025年4月～2026年3月）

（1）電話相談事業

電話相談事業部会

1. ダイヤルの種類と電話台数

1	千葉センターへの相談ダイヤル 043-227-3900	1989.10.1～ 現在電話台数4台（1台は予備使用）	
2 ※	10日フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 0120-738-556 24時間8時～翌8時	2001.12～ 連盟事業に参加	1台
	毎日フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 0120-738-556 *毎水曜日16時～21時 (但し第二は除く)	2020.7～ 連盟事業に参加 *千葉は水曜日（第2除）のみ	
3	ナビダイヤル利用 0570-738-556 10時～22時	2013.3～ 連盟事業に参加：通常電話に組込まれている	

2. 活動内容

2025年11月から36期実習生が実績者人数に入っている。2026年3月に17名が認定され、3月末の在籍者数に加わったが、2025年度辞退者が26名いるため相談員数は減少した。

2025年度も365日24時間実施を目指したが、深夜帯（5帯：21：30～翌7：30を2人で交代）の年間実施率は64.3%だった。昨年度の深夜帯年間実施率58.7%を約5%上回ったものの、前年度同様に埋まりにくい状況が続いている。月別に見ると、7月・1月は70%を超えているのに対し、8月・9月・3月は50%台であり、月による深夜帯実施率の変動が大きいことが分かる。自身の高齢化や家族の問題で深夜帯の担当が難しい相談員が増えていることに加え、フルタイムで働く相談員が増えていることが、深夜帯実施率の伸び悩みに繋がっていると思われる。

深夜帯以外の帯（１～４帯）の実施率は100%であるが、主に朝（１帯：７：30～11：00）や夜（４帯：18：30～21：30）で担当者が２人集まらず、サポーターをつけて１人で担当することが増えている。このような実態から、12月末にサポーターライングループ（１週間以内の急なサポーターの依頼にある程度対応できる相談員のグループ）を作成した。１～３月の実績を見ると、１人担当帯が減少し効果があったと言える。

また３月末現在、休務者数は在籍者数の20%、０回者は担当人数の６%、月２回以上を担当している人は実績者数の63.8%となっている。「月２回以上、その内深夜帯を年間５回以上」活動することは難しいが、辞めないで回数変更届（月１回や深夜帯０回）を出して活動を続ける努力をしている相談員が多い。来年３月は認定者がいないので、相談員数の減少が見込まれる。

3. 特記事項

- ①連盟（内閣府）「孤独・孤立相談ダイヤル」に参加
：５月３日（土）10：00～13：00、
５月６日（火）10：00～16：00
- ②連盟（厚生労働省）９月「自殺予防週間」フリーダイヤル（10日から１週間実施）に参加
：９月12日（金）８時～13日（土）11時
３月「自殺予防月間」フリーダイヤル（10日から１週間実施）に参加
：３月10日（火）８時～翌日８時、
11日（水）～16日（月）15時～21時
- ③連盟（厚生労働省）「能登地震予約制フリーダイヤル」（6/20～受付開始）参加
千葉センターは、９月21日（土）から参加し、実績６件（男性２件、女性３件、不明１件）2026年３月末終了
- ④フリーダイヤル担当人数の変更
フリーダイヤル深夜帯（５帯）は９月から、それ以外の帯（１～４帯）は11月から、２人交替でなく１人担当も可とした。フリーダイヤルがIP電話になり全国で同時受信できるため、１人担当が可能となったこと、深夜帯に４人集めることが難しいことが理由である。
１～４帯では通常電話とフリーダイヤル両方に対応することが可能になった。

4. 電話担当調整

- ①「電話担当調整割当て週」による方法
・継続グループ毎に１週間ずつ担当調整を担当（年に３回～４回）
- ②「空き情報」の連絡網発信による方法
・役員から各グループ連絡係に発信し、連絡係がグループメンバーへ流す（基本月に２回）
- ③サポーターライングループによる方法
・１週間以内の急なサポーターの依頼にもある程度対応できる相談員で作ったグループ
・2026年１月から試行を始めた。

5. 会議

- ①役員会議・・・毎月１回及び必要によって役員６名前後で開催。
実績把握や課題の共有、定例会議の準備や作業を行う。
- ②定例会議・・・年度６回（開催月の第３土曜午前）開催し、役員と各継続グループ代表による定期的な会議で、実績報告や課題の共有、改善点を話し合う。

6. その他

- ①ボランティア連絡協議会への参加
- ②非常用備蓄品等の管理（補充・買い出し）等
- ③年未年始の電話担当者への慰労の茶菓子の用意

7. 課題

①相談員数の減少にどう対応するか

喫緊の課題として、来年3月に認定相談員がおらず、高齢の相談員が辞めていくだろうことを考えると、24時間は今以上に困難である。すぐに増加には転じないであろうことも含めて、センターとしてどう対応するかを語りたい。

②相談員数を増やす

「24時間365日」実施するためには相談員を増やす必要がある。これは電話相談事業部会だけではできないので、センター全体で考えていく。

③深夜帯（5帯）実施を維持する

深夜帯は、1人5時間と長く、またサポーターも兼ねて仮眠するため10時間センターにいることになる。もっと短くする方法など「深夜帯に入りやすくなる案」を検討中である。

④相談員が24時間365日実施するという意識を高める

0～1人の帯に積極的に入るように呼び掛けることも続けるが、相談員の意識を高めるために「いのちの電話のこれからを検討するチーム」と協力して行っていく。

(2) 電話相談概況

電話相談研修担当者会

受信数			累計		
2025年4月～2026年3月（365日）			1989年10月～2025年3月		
総受付件数	17,605件		総受付件数	764,116件	
一日平均	48.2件			—	
男	8,322件	47.3%	男	339,250件	44.4%
女	9,225件	52.4%	女	422,513件	55.3%
その他	58件	0.3%	不明	2,353件	0.3%

●ダイヤル種類別の受付件数

	総件数	男		女		その他	
		件数	%	件数	%	件数	%
通常	14,879件	7,044	47.3%	7,784	52.3%	51	0.4%
フリーダイヤル	693件	359	51.8%	332	48.0%	2	0.2%
*ナビダイヤル	1,559件	695	44.6%	860	55.2%	4	0.2%
*毎日フリーダイヤル	469件	222	47.3%	247	52.7%	0	0
震災ダイヤル	5件	2	40.0%	2	40.0%	1	20.0%
総計	17,605件	8,322件	47.3%	9,225件	52.4%	58件	0.3%

●ダイヤル種類別の自殺傾向

	総受付数	念慮			危険			予告・通告		実行中	
		男	女	その他	男	女	その他	男	女	男	女
通常	1,404件	569	717	1	34	49	0	6	10	4	14
フリーダイヤル	128件	61	60	0	3	2	0	1	1	0	0
ナビダイヤル	236件	76	143	0	5	4	0	2	2	2	2
毎日フリーダイヤル	111件	49	50	0	3	8	0	1	0	0	0
震災ダイヤル	0件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	1,879件	755	970	1	45	63	0	10	13	6	16

*総受付件数17,605件の内、自殺傾向は1,879件（男816件、女1,062件、その他1件）総受付件数の10.7%

●2025年度の電話相談概要

様々な環境の中で、孤立・孤独感を抱えながら、自ら課題に向き合う相談件数は、増加傾向にある。2025年4月から2026年3月までの電話相談概要は次の通り。

1. 受信件数

年間総受信件数は17,605件。2024年度の17,958件に対し、353件（2.0%）の減少となった。一日平均の受信件数は、48.2件となった。

受信件数の内訳は、男性が8,322件（47.3%）、女性が9,225件（52.4%）、その他不明58件（0.3%）だった。

昨年度と比較すると男性の相談件数が増加し、女性の相談件数が減少した。

2. 自殺傾向

総受信件数17,605件のうち自殺傾向は1,879件（男816件・女1,062件・その他1）で、総受信件数の10.7%に自殺傾向が見られた。

昨年度（1,768件）と比較すると、男女とも自殺傾向件数は増加している。特に男性の自殺傾向件数は、昨年度（684件）より増加している。

3. 相談内容別件数と自殺傾向

相談内容は、男女とも生き方、生きがい、孤独に関する「人生」の相談が多く、生きづらさを語っており、「人生」の相談件数は、3,808件で総受信件数の21.6%を占めている。

男性は、「人生」の次に病に関する「精神」、ハラスメントやいじめなどの「対人」の順となっており、女性は、「人生」の次に「対人」、「家族」、「精神」の順となっている。

自殺傾向件数では、「人生」に関する相談が628件、次に「精神」に関する相談が476件となっている。

自殺傾向率は、「精神」が18.4%、「人生」が16.5%、「経済」が12.9%となっている。

フリーダイヤルでも、同様の傾向が見られるが自殺傾向率が20.6%を示し、総受信件数に対する自殺傾向率（10.7%）より高い率を示している。

4. 年代別相談件数と自殺傾向

年代別の受信件数は、50代が多く総受信件数の15.7%を占めている。次に60代、40代の順となっている。

自殺傾向件数は、50代が最も多く、60代、40代と続き、40代から60代で全体の35.6%を占めている。

自殺傾向率では、40代が15.0%、30代が12.8%を示し、若い年代の自殺傾向率が高くなっている。

各年代とも、孤立、孤独感の中で「生きづらさ」を語る相談が増加している。

5. 精神疾患有無別相談件数と自殺傾向

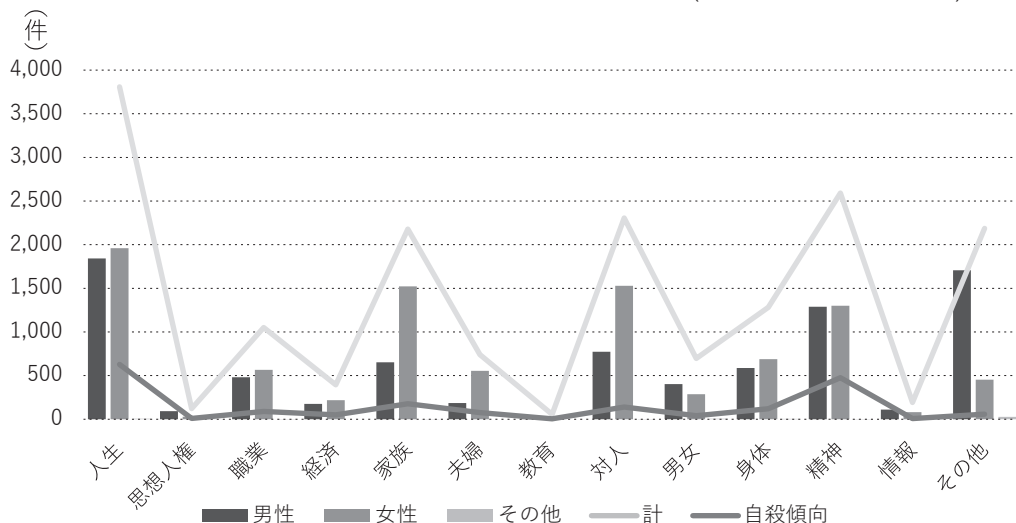
精神疾患を持たれる方は、「病歴あり・治療中・疑い」を含めると、総受信件数17,605件のうち7,841件で全体の44.5%を占める。

現在「治療中」の方で、自殺傾向が見られる件数は、1,065件と高くなっている。

6. 自殺未遂歴

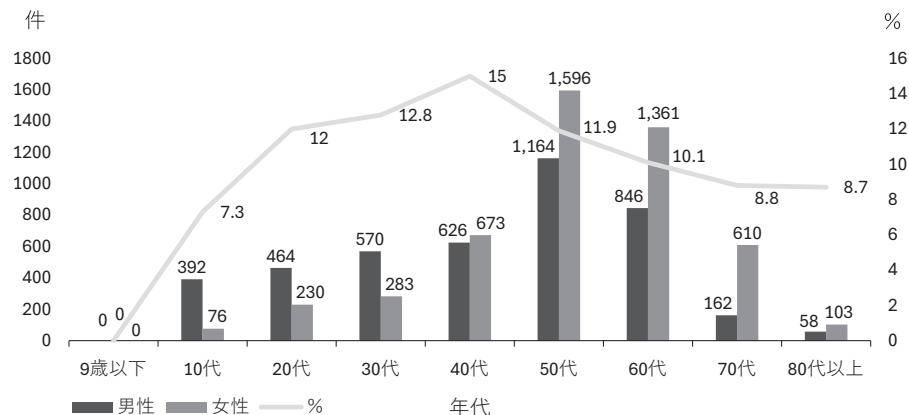
自殺未遂がはっきりしているケースは、594件で総受信件数の3.3%にあたる。昨年度（727件）と比較すると自殺未遂歴のある方の相談件数は減少した。

◆ 内容別相談件数と自殺傾向（通常・自殺予防・毎日FD・ナビダイヤル）
（2025.4.1～2026.3.31）



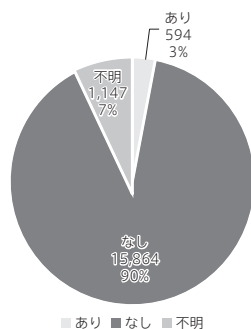
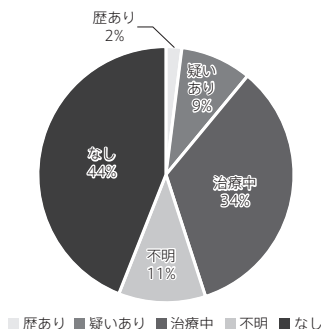
	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男 性	1,842	92	481	176	653	185	21	774	403	588	1,289	111	1,707	8,322
女 性	1,960	29	566	219	1,522	555	35	1,529	287	689	1,300	81	453	9,225
その他	6	1	3	0	3	0	0	3	6	5	3	1	27	58
計	3,808	122	1,050	395	2,178	740	56	2,306	696	1,282	2,592	193	2,187	17,605
自殺傾向	628	9	90	51	177	77	5	140	40	120	476	8	58	1,879
%	16.5	7.4	8.6	12.9	8.1	10.4	8.9	6.1	5.7	9.4	18.4	4.1	2.7	10.7

◆ 年代別相談件数と自殺傾向（2025.4.1～2026.3.31）



年 代	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	総計
男 性	0	392	464	570	626	1,164	846	162	58	4,040	8,322
女 性	0	76	230	283	673	1,596	1,361	610	103	4,293	9,225
その他	0	1	7	2	2	2	0	2	0	42	58
計	0	469	701	855	1,301	2,762	2,207	774	161	8,375	17,605
自殺傾向	0	34	83	110	195	327	223	68	14	825	1,879
%	0	7.3	12	12.8	15	11.9	10.1	8.8	8.7	9.9	10.7

◆ 精神疾患有無別相談件数 (2025.4.1～2026.3.31) ◆ 自殺未遂歴 (2025.4.1～2026.3.31)



	歴あり	疑いあり	治療中	不明	なし	合計
計	397	1,462	5,982	1,984	7,780	17,605
%	2	9	34	11	44	100
自殺傾向	69	210	1,065	163	372	1,879

	あり	なし	不明	計
男 性	250	7,544	528	8,322
女 性	343	8,269	613	9,225
その他	1	51	6	58
計	594	15,864	1,147	17,605

(3) - 1 インターネット相談事業 (メール相談)

インターネット相談事業部会

今年度は、部員13名(休務2名)で、月7回の返信活動を担当者2～3名で継続することができた。受信数は、昨年とほぼ同じで月平均約12件だった。地域別では、千葉県が最も多いのは変わらない。性別では男性が女性の約2倍、年代別では40代以上が全体の6割以上である。10月からはインターネット相談事業部が、メール相談とLINE相談の2つとなった。LINE相談の相談数は、30代以下が半数以上であることから、相談ツールの幅が広がった意義を強く感じる。相談内容は精神が約4割で最も多く、これらの傾向は変わらない。「千葉いのちの電話」でのインターネット相談を少しでも多くの人たちに知ってもらうため、地域新聞にメール相談とLINE相談について掲載した。リーフレットも新たに作成し、県内の各大学等に送付した。HPの内容についても、規約や相談開始までの操作などをわかり易く改定した。

継続研修は上田将史氏(一般社団法人千葉県公認心理師協会会長)に講義とGSV(グループスーパービジョン)でメール相談の実践を通しての課題を中心に指導して頂いた。研修担当者のフォローアップ研修も上田氏に継続していただいた。公開講座として5月には石川真紀氏(千葉県精神福祉センター)、10月には中村修氏(性犯罪者更生プロジェクト)、2月には平田園氏(アンコンシャスバイアス研究所)に講義をしていただき、学びを広げることができた。他の事業部の方と共に学ぶ良い機会ともなった。また、自主研修として『「いのちの電話」の原点と理念』を取り上げた。先輩たちの書かれた言葉や実践を知ること、私たちの活動の原点と理念を改めて学び直す良い機会となった。

インターネット相談統計（2025年4月～2026年3月）

地域別		性 別		相談回数	
千葉県	93	男	88	1 回	77
その他	39	女	47	2 回	42
不 明	13	不 明	10	3 回	26
計	145	計	145	計	145

■ 年代別相談件数

年代別	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不 明	計
件 数	0	4	18	25	35	33	17	1	12	145

■ 相談内容別

相談内容	人生	人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	計
件 数	36	4	5	11	8	0	0	17	3	0	57	2	2	145

■ 自殺傾向

自殺傾向	な し	念 慮	危 険	予 告	実施中	不 明	計
件 数	100	35	0	0	0	10	145

(3)ー2 インターネット相談事業（LINE相談）

インターネット相談事業部会

期 間：2025年4月1日～2026年3月31日

実施回数：36回（月3回、第2・3・4日曜日の16時～19時に受付）

相談件数：72件（1回あたり平均2.0件）友だち登録者数421人

2025年度は、LINE相談が正規運用（2025.10.1～）を開始してから初めての年間統計となった。現在、9名のLINE相談員で運用にあたっている。件数にあては72件となり、運用日1日あたりの相談件数が2件の平均となっている。

相談の内訳に関しては、性別で女性が全体の7割を超えており、男性は2割程度になっている。年代別では30代最も多く、次に40代、20代、10代、50代、60代となっており、70代以上の高齢者層の年代はないのが特徴的である。

学生・職業別では、有職が47%、無職22%、学生（小学生・中学生・高校生・大学生・大学院生・専門学校生を含む）が13%となっており、1割以上の相談がある。

疾患の有無では、精神疾患が疑いありを含め4割程度が発症しており、割合が高い傾向を示している。

自殺傾向は、念慮・予告通告を合わせて4割と高く、慎重な相談体制を求められている。利用状況では、初回割合が多いが複数回利用者も4割弱を占めており相談の継続性の傾向がある。

内容分類では、精神に関するものが一番多い結果となり、次に対人、人生、家族の順となっている。やはり、相談者の精神疾患の発症割合が高いことが起因していると推測される。

今後、悩める環境の中でLINE相談の特性を活かし、若年層や電話での相談が不得手な人たちも含め、どなたからでも相談がしやすい窓口となるよう、更に相談体制を整え、自殺予防に寄与していきたい。

■ 性別件数

性 別	男性	女性	その他
件 数	15	53	4

■ 身体疾患件数

身体疾患	疑いあり	歴あり	治療中	なし	不明
件 数	2	2	6	42	20

■ 生活形態件数

生活形態	同居	独居	不明
件 数	30	7	35

■ 年代件数

年 代	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
件 数	0	11	12	20	13	7	4	0	0	5

■ 精神疾患件数

身体疾患	疑いあり	歴あり	治療中	なし	不明
件 数	7	2	21	23	19

■ 地域件数

地 域	市内	県内	県外	不明
件 数	25	28	6	13

■ 学生・職業件数

学生・職業	有職	無職	小学生	中学生	高校生	学生	不明
件 数	34	16	2	2	3	2	13

■ 自殺傾向件数

自殺傾向	なし	念慮	危険	予告通告	実行中	不明
件 数	36	28	0	1	0	7

■ 自殺未遂件数

自殺未遂	あり	なし	不明
件 数	7	50	15

■ 内容分類件数

内容分類	1 人生	2 思想人権	3 職業	4 経済	5 家族	6 夫婦	7 教育	8 対人	9 男女	10 夫婦	11 精神	13 その他
件 数	9	2	2	2	8	1	2	11	5	5	13	12

■ 利用状況件数

利用状況	初回	再度	頻回
件 数	47	23	2

(4) 対面相談事業

対面相談事業部会

1. 活動内容

2025年度の対面相談事業は、12名の相談員（前年度＋4名）で月・火・木・土曜日の週4日体制（前年度＋1日）にて活動を行う。通期の相談件数は119件、前年度に対して22件の減少。2回目の相談に繋がったケースが10件で前年度－9件、3回以上の継続相談が88件で前年度－8件となる。1回で終了される方と相談の継続を終えた方が増えた。具体的（専門的）

な問題解決等を望む方への対応不足もあるが、「相談員の聴く態度・傾聴力」が問われているケースもある。対面相談の特徴である「相談の継続性」を高めるため、引き続き相談員の能力向上に注力したい。また、2年ぶりに再開した土曜日の相談は18件となり平日に仕事をされている方のニーズに応えることができた。自死遺族支援の個別相談は、印旛健康福祉センターで奇数月の第3金曜日に実施しており、相談件数は15件となった。来年度は「自死により大切な方を亡くされた方」の個別相談について、取り組みの強化を図りたい。

2. 対面相談概況（2025年4月～2026年3月）

対面相談の開始以来17年間で2,005件の相談となり、年平均の相談件数は118件となっている。今年度119件の男女別内訳は、男性が41件（男性比率34%）・女性が78件（女性比率66%）。男女比率は概ね前年と同じである。年代別に見ると、60代以上の相談件数が61件（件数構成比51%）で全体の半数以上を占める。相談回数は3回以上が88件で最も多い。内容別では、相談件数が多い順に「家族」「人生」「自死遺族」「対人」となっている。自殺傾向については念慮が5件（前年度6件）であった。精神的治療を受けている方は、新規受付23名の内15名（65%）。治療者の了解を得て来談されているが、予約のキャンセル・相談中の急な体調不良なども散見される。

◆ 実施件数

年 度	実施件数
2009年～2024年	1,886
2025年	119
計	2,005

◆ 男女別

年 度	実施総数	男	女
2025年	119	41	78

※自死遺族個別相談15件含む

◆ 年代別

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男	0	8	3	9	2	13	6	0
女	0	0	13	7	16	17	24	1
計	0	8	16	16	18	30	30	1

◆ 相談回数別

1回： 21	2回： 10	3回以上： 88
--------	--------	----------

◆ 相談内容別

項 目	人生	職業	経済	家族	対人	身体	精神	自死遺族
件 数	34	0	0	36	15	0	13	21

◆ 情報源別

情報源	地域新聞	HP	広報誌	3事業	公開講座	ポスター	その他
件 数	31	39	10	13	0	0	26

◆ 自殺傾向

傾 向	なし	念慮	危険	予告	自傷等	不明
件 数	113	5	0	0	0	1

◆ 自死遺族個別相談（於：印旛健康福祉センター）

相談件数：15件

3. 研修内容

2025年度の研修は前年度に引き続き専任講師 佐藤俊一氏より、講義および事例検討、シナリオに基づくロールプレイを中心にご指導いただいた。メンバーの言葉の裏にある思いを身体感覚として捉え、その瞬間に表現することの難しさに向き合う中で、ひとり一人が自身の課題を自覚し深く取り組んでいる様子がうかがえた。グループという場だからこそ可能な「他者を内側から見る体験」は、実際の対面相談の場面においても生かされ、具体的な実践へとつながっている。研修の目的である「グループダイナミクスの力を高める」ことに着実に近づいており、今年度初めて実施した宿泊研修の効果を実感できるものとなった。

継続研修

- ・講師：佐藤俊一氏
- ・実施：10回
- 4/13（日）12名・5/18（日）11名・6/22（日）11名・7/13（日）10名・9/20（土）10名・10/19（日）12名・11/16（日）12名・12/14（日）11名・1/25（日）9名・2/15（日）10名
- ・内容：講義・感受性トレーニング・ロールプレイ・事例検討

宿泊研修

- ・講師：佐藤俊一氏
- ・実施：8/30（土）～8/31（日）
- ・内容：グループダイナミクス ～グループを通して学ぶ今ここでの体験～
講義・ロールプレイ・感受性トレーニング（4セッション）

個人スーパービジョン

- ・スーパーバイザー：佐藤俊一氏
- ・実施：12/7（日）・12/20（土）・12/28（日）・1/10（土）・1/25（日）
対面相談員11名

（5）自死遺族支援事業

自死遺族支援事業部会

わかちあいの会「ひだまり」は、千葉会場で毎月第3土曜日、柏会場で奇数月第2日曜日、印旛会場で偶数月第3金曜日の実施しに加えて今年度は、船橋市と共催で「わかちあいin船橋」をトライアルとして2回行なった。茶話会も例年通り2会場で行っている。参加者は222名内初参加39名、「わかちあいin船橋」の参加者は15名内初参加10名で男性の参加者も増えてきている。

自死遺族限定の「ミニ講演会・交流会」も例年通り千葉市生涯学習センターで行った。

千葉いのちの電話は今年、いのちの電話連盟の自死遺族支援実施センター合同研修の当番センターになりzoomで研修を行い好評を得た。

スタッフの研修としては、通常の継続研修、振り返りの他に宿泊研修「スタッフとしての課題発見型グループ体験学習」で、ひだまりを想定したロールプレイを繰り返す中で、ひだまりへの思いや参加者の気持ちを深めることができた。9月から1月にかけて養成研修の講座を開き4名が認定を受けた。振り返りを丁寧に言い、参加者にひだまりが安全で安心な場所と思ってもらえるように、そして寄り添っていく努力を続けていきたい。

◆ 自死遺族支援事業部研修・振り返り及びスタッフ会議

〈振り返り及びスタッフ会議〉

開催日：毎月第1月曜日 10：30～12：30

・〔前半：振り返り（自主研修）〕前月のひだまりや茶話会の報告書をもとに話し合い、ス

スタッフ間の共通理解を図る。疑問が残った課題については、講師に指導を仰ぐ。

- ・[後半；スタッフ会議] 各委員会等の報告や部内の報告事項を行うことと、部内での協議事項について話し合う。

◆ 令和7年度 自死遺族支援実施センター合同研修会

令和8年1月24日(土) 会場；CIDビル →zoomにて(担当；千葉いのちの電話)

- ・講演「悲しみ、苦しむ人の傍らで寄り添うために ～自死遺族の悲嘆の特徴～」

講師：吉久小夜子氏(認定NPO法人グリーフケア・サポートプラザ副理事長)

◆ ミニ講演会・交流会

10月6日(日) 会場；千葉市生涯学習センター(参加者18名)

- ・講演「大切な人を自死でなくすということ」

講師：吉久小夜子氏(認定NPO法人グリーフケア・サポートプラザ副理事長)

- ・講師を囲んで交流会

◆ ひだまり開催と参加者数(2025年4月～2026年3月)

年 度	開催回数	会場別参加者数(人)							累計	参加者内訳(人)	
		千葉	習志野	柏	君津	印旛	浦安	船橋		男	女
～2024	462	900	6	803	11	185	2		1,907	698	1,209
2025	26	136		45		21		15	217	82	135
計	488	1,036	6	848	11	206	2	15	2,124	780	1,344

◆ 茶話会開催と参加者数

年 度	茶話会回数	参加者数	参加者内訳	
			男	女
～2024	47	215	52	163
2025	4	10	5	5
計	51	225	57	168

◆ 2025年度 合計

会 場		開催数	参加者数	死別対象					備考
				子ども	親	兄弟姉妹	配偶者	その他	
ひだまり	千葉	12	136	79	8	11	48	友人1	重複あり
	柏	6	45	22	8	8	6	友人1	重複あり
	印旛	6	21	9	0	5	7		
	船橋	2	15	6	2	0	4	友人3	
	計	26	217	116	18	24	65	5	重複あり
茶話会	柏	2	3	4	2	0	1		
	千葉	2	2	1	0	0	2		
	計	4	5	5	2	0	3		
合計		30	222	121	20	24	68	5	重複あり

Ⅱ 養成と研修

(1) ボランティア相談員の養成

- ①36期ボランティア相談員養成基礎講座 17名
 - I 課程 4月～ 5月 (講義、宿泊研修)
 - II 課程 5月～ 7月 (グループ研修)
 - III 課程 8月～10月 (講義、グループ研修)
 - IV 課程 11月～ 3月 (講義、電話実習、グループ研修、個人スーパービジョン)
- 講師 友田直人氏、永原伸彦氏、清水新二氏、佐々木剛氏、佐藤俊一氏、木村登紀子氏、西浦加代子氏、末松渉氏
- ②4事業合同研修担当者3期養成研修(1年目) 4名
10月～ 3月 (講義、グループ研修) 講師 友田直人氏、佐藤俊一氏
- ③第9期自死遺族支援スタッフ養成研修 4名
9月～ 2月 (講義) 講師 末松渉氏、清水新二氏、佐藤俊一氏、木村登紀子氏、西浦加代子氏、吉久小夜子氏、森美加氏
- ④インターネット相談事業LINE相談員養成研修 9名
4月～10月 (講義、実習、グループ研修) 講師 石川真紀氏、上田将史氏

(2) 相談員の研修

- ①電話相談員研修
 - 認定1年目継続研修(35期) 1グループ
4月～2月 (講義、グループ研修)
講師 佐藤俊一氏、末松渉氏、上田将史氏、木村登紀子氏、西浦加代子氏
 - 継続研修(1期～34期) 16グループ
4月～2月 (グループ研修、個人スーパービジョン)
専門家による研修(10回)
講師 西浦加代子氏、木村登紀子氏、上田将史氏、佐藤俊一氏
 - 3年目研修(33期)
8/17 講師 森美加氏「自分を見つめ他者に寄り添うロスカケア研修」
 - 全体研修会
8/15 講師 廣瀬素久氏、河崎智子氏
「ストレスに負けない心の強さを鍛えるアンガーコントロールとセルフケア」
11/23 講師 佐々木剛氏「精神疾患とコミュニケーション能力」
2/ 8 講師 佐藤俊一氏「日本の文化における死の理解」
 - 事例検討会
1/31 講師 西浦加代子氏「頻回通話者へのかかわり」
 - 研修担当者フォローアップ研修
4月～3月 (グループ研修、宿泊研修、個人スーパービジョン) 講師 末松渉氏
- ②自死遺族支援スタッフ研修
 - 継続研修 4月～3月 (講義、グループ研修、宿泊研修、グループスーパービジョン)
 - 研修担当者フォローアップ研修 4月～2月 (講義、グループ研修) 講師 末松渉氏
- ③対面相談員研修
 - 継続研修 4月～2月 (講義、グループ研修、宿泊研修、個人スーパービジョン)
 - 研修担当者フォローアップ研修 5月～2月 (継続研修のファシリテーション振り返り)
講師 佐藤俊一氏
- ④インターネット相談員(メール、LINE)研修
 - 継続研修 4月～3月 (講義、グループ研修、グループスーパービジョン)
講師 石川真紀氏、上田将史氏、中村修氏、平田園氏
 - 研修担当者フォローアップ研修 6月～3月 (講義、グループ研修)
講師 上田将史氏
- ⑤外部研修
 - ・全国研修担当者研修(12/12～12/13)
 - ・全国自死遺族支援実施センターオンライン研修(1/24)

Ⅲ 活動報告

1. 理事会・評議員会の開催

理事会 5月22日 10月23日 2026年3月12日
評議会 6月19日 11月21日 2026年3月19日

2. 部会・委員会活動

(1) 研修委員会

(5/20、10/21、3/10)

- ・ 37期養成講座の基本的な考え方
- ・ 研修ボランティア部会の運営協議会への参加
- ・ インターネット相談事業LINE相談員の認定
- ・ 2026年度事業計画
- ・ 自死遺族支援事業スタッフの認定
- ・ 36期ボランティア相談員の認定
- ・ 37期ボランティア相談員募集要項の決定
- ・ 相談員の再認定の在り方

(2) 研修専門家部会

(5/7、7/11、10/14、10/29、3/4)

- ・ 36期養成講座第Ⅰ課程、Ⅱ課程、Ⅲ課程、Ⅳ課程の判定
- ・ 37期養成講座カリキュラムの検討
- ・ 電話相談継続研修の実施
- ・ 2026年度事業計画
- ・ インターネット相談事業LINE相談員の判定
- ・ 自死遺族支援事業スタッフの判定
- ・ 36期ボランティア相談員の判定
- ・ 相談員の再認定の在り方

(3) 研修ボランティア部会

(4/5、4/26、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、2/7、3/7)

- ・ 各事業研修報告
- ・ 36期養成講座の実施状況
- ・ 運営協議会との連携
- ・ 4事業合同研修担当者養成講座の実施状況
- ・ 37期養成講座カリキュラムの検討
- ・ インターネット相談事業LINE相談の研修状況
- ・ 研修ボランティア部会運営要綱（案）の検討
- ・ 2026年度事業計画
- ・ 相談員の兼務と専務
- ・ 2026年度役員改選
- ・ 相談員のケア

(4) 運営協議会

1. 毎月開催
2. 4事業活動報告の共有と提議事項を協議する。
 - ・ 「ボランティア活動費に関する規程の改正」をまとめ、3月の理事会に提出し、承認された。(4月)
 - ・ LINE相談は、インターネット相談事業部に配置することを決定。(5月)
 - ・ 研修ボランティア部会長が運営協議会の構成メンバーとして出席することを、6/19の臨時理事会に提議し、承認された。(5月)
 - ・ 東葛地区サテライト設置について検討するも、課題が多いことにより否決された。(7月)

- ・「業務見直しプロジェクト」を発展的に継続するために「千葉いのちの電話の今後の在り方検討会」を発足させることを決定した。(10月)
- ・「相談事業の兼務・専務について」①電話を基本として継続しながら他事業を兼務する。兼務する事業は制限なし。ただし、自死遺族支援と対面相談は匿名性の関係で兼務できない。(3月)

(5) 事業委員会

1. 定例会議
 - ・運営協議会（各事業部会長が出席）に含まれている
2. 臨時会議（運営協議会の開催後に8回実施した）
 - ・事業委員会活動内容の確認（ガイドブック作成は事務局に移管）
 - ・各事業部会の運営要綱の確認、修正
 - ・事業委員会の運営要綱の確認、修正
 - ・親睦会（事業委員会総会）の計画、準備
 - ・兼務について
 - ・地域新聞掲載について
 - ・相談援助担当時における緊急対応の確認
3. 来年度の事業計画案、予算案を作成
4. 事業委員会総会（親睦会）の開催
 - 日 時：2025年11月29日（土）13：30～16：00
 - 内 容：第1部 各事業委員会の発表
 - 第2部 茶話会
 - 懇親会：17：30～
5. 2025年度の事業委員会は、自死遺族支援事業部が担当した

(6) 総務財務委員会

1. 継続グループからサポーターを募集し、14人が参加、4つの部署に分かれて活動することが決まった。
2. 自殺予防週間中の9/11と自殺予防月間中の3/9にJR千葉駅で、駅員と一緒にティッシュ配り。
3. 船橋市自殺予防週間及び健康増進普及月間パネル展に参加（9/11～9/30）
ポスターを掲示、チラシ、PRカード、リーフレット、ポケットティッシュを配布
4. ふなばし健康まつり出展（11/2）
 - ・チラシ、PRカード、リーフレット、ポケットティッシュを配布
 - ・対面相談実施
 - ・カラー判断コーナー
5. 2025年度認定式、永年表彰式、親睦会開催
 - ・日時 2026年3月21日（土）13時～16時
 - ・場所 CIDビルセミナー室
 - ・認定式 認定者 36期電話相談員17名 自死遺族支援4名 LINE相談9名
 - ・永年表彰式 該当者19名 参加者15名
 - ・親睦会 35期が企画運営し、親睦を図った。

■財務・総務部会

- ・2026年度事業計画・予算書の作成
- ・図書の整理

■ボランティア増強部会

1. 定期的部会の開催
 - ・2025年度は、サポートメンバーも参加し土日を中心に6回部会を開催
2. 主な活動
 - ①2025年度は、相談員養成研修の期間変更により募集を実施していない。
・それにより活動は、前年までの活動内容の確認や他センターの募集方法も検証した。
 - ②第37期ボランティア相談員募集方法の検討

- ・ 2回の説明会を3回に増やす。3回共、公開講演会・募集説明会方式で実施。
- ・ 37期募集から、県北西部の募集実績の多い自治体等に募集チラシ・募集案内の配布数を増やした。これにより募集チラシの全体配布数は36期募集の約2倍となった。

■広報啓発イベント部会

*広報プロジェクト

- ・ 広報誌81号（A4カラー6ページ）2000部 6月10日発行
- ・ 広報誌82号（A4カラー6ページ）2500部 11月10日発行
- ・ 広報誌83号（A4カラー6ページ）3000部を2026年6月10日発行に向けて企画・取材を行う。

*講演会プロジェクト

- フリーダイヤル公開講演会 開催
12月6日「SOSを出す勇氣」講師：信田さよ子氏 千葉市文化センター
- 広域広報活動
県内「自殺対策担当」部署30か所に発送（PRカード、4事業リーフレットのセット）

(7) 事務局

- ・ 職員採用：2025年4月 白井住三子（総務担当）

IV 他機関との連携

1. 千葉県のいのちの電話協会後援事業

- (1) 第22回千葉いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート（6/7）
会 場：千葉市文化センター・アートホール
出演者：ナターシャ・グジー ～水晶の歌声とバンドゥーラの可憐な響き～
- (2) 第33回千葉いのちの電話チャリティーコンサート（11/22）
会 場：千葉市民会館大ホール
出演者：小野リサ ～ボサノバミュージックジャーニー2025～

2. 一般社団法人日本いのちの電話連盟

- (1) 第16回定時社員総会に出席（6/21）
- (2) 事務局長会議に出席（10/7）
- (3) 統計委員会に出席（10/7）
- (4) 関東甲信ブロック会議に出席（12/2）
- (5) 厚労省事業「能登半島地震予約ダイヤル（3/31終了）」に参加
- (6) いのちの電話ナビダイヤルに参加
- (7) 内閣府主催孤独・孤立電話相談ダイヤル参加（5/3、6）
- (8) 自死遺族支援全国研修会運営担当（2026/1/24 Zoom）

3. 千葉県諸機関との連携

- (1) 自殺対策支援連絡協議会のメンバーとして会議に出席
（千葉県・千葉市・浦安市・柏市・市川市・船橋市・松戸市・八千代市、白井市、横芝光町）
- (2) 千葉県精神保健福祉協議会にメンバーとして出席
（心のふれあいフェスティバル・心の健康フェア・地域移行支援セミナー）
- (3) 千葉県精神保健福祉センター（電話相談に関する情報交換会）出席
- (4) 千葉県安全安心まちづくり推進協議会に出席
- (5) 千葉市ボランティア連絡協議会の関連行事に参加
- (6) 船橋市健康まつり（11/2）、自殺対策パネル展（9/11～9/30）参加。
- (7) JR東日本自殺対策駅頭キャンペーン参加（9/11、2026/3/9 何れも千葉駅）

2025（令和7）年度 決算報告

■貸借対照表（2026（令和8）年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	36,079,856	流動負債	55,732
現金	30,166	未払い費用	0
普通預金	32,816,690	預り金	12,250
事業未収金	3,233,000	職員預り金	11,492
立替金	0	前受金	31,990
固定資産	166,117,304	負債の部合計	55,732
基本財産	98,720,548	純 資 産 の 部	
土 地	59,500,000	基本金	145,812,651
建 物	39,220,548	その他の積立金	59,595,762
その他の固定資産	67,396,756	修繕積立金	26,000,000
建 物	4,037,944	備品等購入積立金	10,000,000
構築物	1	ボランティア養成積立預金	5,261,745
器具及び備品	995,476	掌風会養成積立金	17,260,928
電話加入権	536,372	40周年積立金	1,300,000
ソフトウェア	4,290	研修積立金	2,000,000
修繕積立資産	26,000,000	次期繰越活動増減差額	△ 5,493,896
備品等購入積立資産	10,000,000	（うち当期活動収支差額）	△ 168,597
ボランティア養成積立資産	5,261,745	純資産の部合計	202,141,428
掌風会養成積立資産	17,260,928		
40周年積立資産	1,300,000		
研修積立資産	2,000,000		
資産の部合計	202,197,160	負債及び純資産の部合計	202,197,160

■資金収支決算書（2025（令和7）年4月1日～2026（令和8）年3月31日）

（単位：円）

	科 目	予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)－(B)
事業活動による収支	相談事業収入	12,302,000	13,061,423	△ 759,423
	経常経費寄附金収入	6,800,000	9,252,351	△ 2,452,351
	受取利息配当金収入	2,500	105,610	△ 103,110
	その他の収入	1,210,000	925,000	285,000
	収 入 計	20,314,500	23,344,384	△ 3,029,884
	人件費支出	7,486,504	7,563,265	△ 76,761
	事務費支出	14,085,416	12,776,498	1,308,918
	支 出 計	21,571,920	20,339,763	1,232,157
	事業活動資金収支差額	△ 1,257,420	3,004,621	△ 4,262,041
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0	0
	施設整備等支出	0	145,970	△ 145,970
	施設整備等資金収支差額	0	△ 145,970	145,970
その他の活動による収支	その他の活動収入	2,000,000	385,000	1,615,000
	修繕積立預金・他支出	0	3,300,000	△ 3,300,000
	その他の活動資金収支差額	2,000,000	△ 2,915,000	4,915,000
	予 備 費			0
	当期資金収支差額合計	742,580	△ 56,349	798,929
				0
	前期末支払資金残高	59,573,360	36,080,473	23,492,887
	当期末支払資金残高	60,315,940	36,024,124	24,291,816

監査報告書

令和 8 年 5 月 7 日

社会福祉法人千葉いのちの電話

理事長 友田直人 様

監事 大森 薫 

監事 松平 予次 

私達監事は、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの令和 7 年度（2025 年度）理事の職務執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその付属明細書）について検討いたしました。さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調整を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

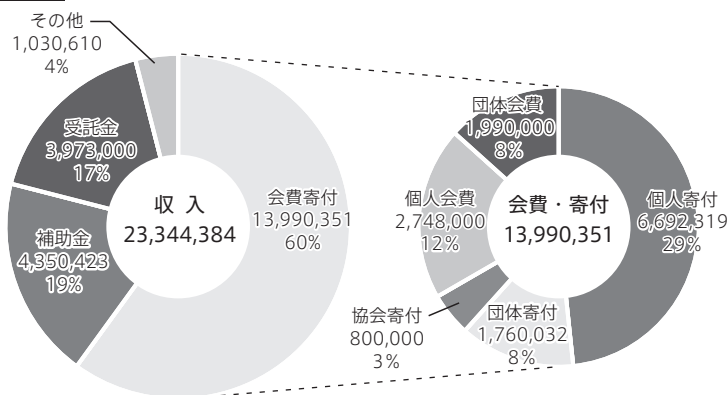
■2025（令和 7）年度補助金等内訳

（単位：円）

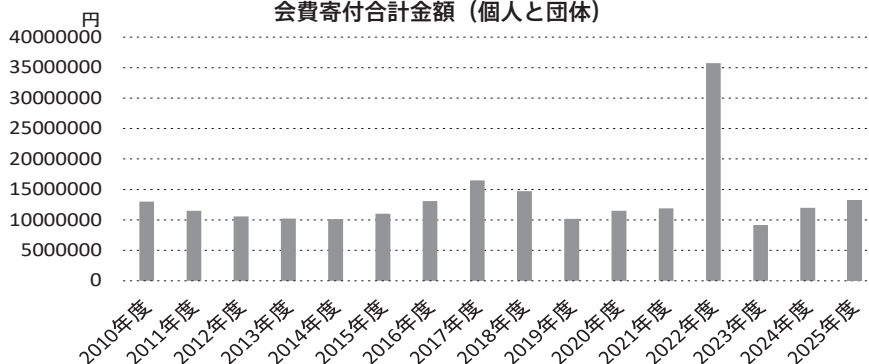
千葉県（電話相談員研修費）	1,300,000	自死遺族支援事業	
千葉県強化基金	773,000	千葉県受託事業	1,748,000
千葉市（電話相談員研修費）	500,000	柏市受託事業	185,000
千葉市（自死遺族支援）	200,000	計	1,933,000
千葉県共同募金会	599,000		
日本いのちの電話連盟	978,423		
計	4,350,423		

財務報告

2025年度収入の内訳（単位：円）



会費寄付合計金額（個人と団体）



令和7年度の収入は23,344,384円。このうち、会費寄付が収入の60%でした。昨年に比べて、会費寄付が増加したのは、300万円の遺贈寄付を頂いたからです。8年前と比べると維持会員の数が58%に減少しているので、財政基盤を整備する必要があります。

■大口団体寄付（5万円以上）ありがとうございました。

敬称略（アイウエオ順）

上野社会保険労務士事務所、カトリック西千葉教会、金坂医院、医療法人グリーンエミネンス中村古峽記念病院、京葉銀行社会活動推進室、京葉銀行小さな親切運動推進本部、（一社）生命保険協会千葉県協会、千葉県精神科病院協会、千葉県流通商防犯協力会、千葉興業銀行ともしびの会、千葉信用金庫、千葉大学医学部附属病院看護部、千葉中央ライオンズクラブ、千葉ロータリークラブ、長谷川化学工業（株）、（有）やまあき、連合千葉

2026（令和8）年度 事業計画基本方針

- 基本理念の確認と浸透**
 - ・精神的危機に直面し苦悩している人に傾聴を基本姿勢として寄り添う相談活動を通して、裾野の広い自殺予防活動を行う。これらは、善良な市民の自らの意思による無償の行為である。いのちの電話関係者はこの基本理念を常に確認し共有し、浸透させること。
- 千葉いのちの電話の一般県民への広い周知とボランティア確保**
 - ・自殺予防活動を目的とし活動するこの働きを、広く県民一人一人に周知すると共にボランティアへの参加促進をアピールする。
- 組織運営の理解促進と定着**
 - ・法令・社会・利用者・相談員等の要請に応えるため組織・各内規・手引き・マニュアル等の整備を進める。
 - ・内部での理解・改善・見直しを、対話を基に進める。
- 施設・設備整備の実施**
 - ・特に経年劣化に注意しながら、建物・設備の点検と整備の計画化。
 - ・施設・設備及び整備資金計画と所要資金積立の継続実行。
- 財政基盤の健全な強化**
 - ・安定的な寄附金収入の確保と拡大のため、維持会員を更に獲得する方法の検討と実施。
 - ・特に新規の企業・団体・個人へ賛同を訴求する新たな手法を構築する。
 - ・公的及び民間等の補助・助成制度の調査と助成申請の実施。
- リスクマネジメント活動の推進**
 - ・様々な非常事態を想定し、相談員や設備、組織を保護することと相談活動の安定的継続を目的に、対策のマニュアル化と相談員への周知を目指す。
- 事業継続計画（BCP）の計画策定**
 - ・事業継続計画（BCP）策定と模擬訓練の実施。
- 将来像の検討**
 - ・基本理念に基づき、社会の変化に対応した、将来の千葉いのちの電話のあり方を検討する。
 - ・資質向上と研修体系のさらなる検討
 - ・SNSを活用するネット相談の実施
 - ・若年層の相談のあり方の検討（被相談者及び相談員の可能性）

2026（令和8）年度 事業目標

- 研修委員会**
研修全般に関する方針策定、研修計画・予算案の承認
研修の課題への対応及び決定
 - 研修専門家部会
研修に関する事項や課題について専門家の立場から協議・提言・提案を行う。相談員の判定・認定を行う。
 - 研修ボランティア部会
研修専門家部会とともに、研修計画の策定、予算の作成、決定された研修の実施を行う。
- 事業委員会**
適切な相談活動の維持・継続のための、直接的な施策の検討と実施。
すなわち円滑な相談活動のため、相談員への配慮をしつつ関係団体との調整を実施する。また、記録の整理・分析と保存、福利厚生、環境整備を実施する。各部会毎のテーマは以下の通り。
 - ・電話相談事業部会：24時間体制確保と日本いのちの電話連盟との連携の強化、電話相談担当の調整、相談環境の改善
 - ・インターネット相談事業部会：非会話の特性を生かした特に若年層利用の拡大
 - ・対面相談事業部会：地域への開かれた相談の場所として利用者の拡大
 - ・自死遺族支援事業部会：コロナ禍以降の利用者に対し、わからあいの会ひだまりの役割の充実
 - ・SNS相談の実施と拡大

- 総務財務委員会**
適切な相談活動の維持・継続を側面より支える活動
自殺予防の啓発、相談員の拡大、財務支援の増強等のため、広く県民に千葉いのちの電話の存在を周知し、理解と協力を仰ぐ。各部会毎のテーマは以下の通り。
 - ・ボランティア増強部会：ボランティア募集と応募者の拡大
 - ・広報啓発イベント部会：講演会の開催、等による周知と財政支援
 - ・財務総務部会：事業計画・予算案作成を中心に、健全な事業の遂行と財務基盤の拡張
- 事務局**
事業計画・予算に則し各事業の円滑な推進を図る。
消防計画の見直し及び防災設備点検
役員体制の強化
BCPの策定

2026（令和8）年度 一般会計予算	
2026年4月1日～2027年3月31日	
科 目	予算額
【収入の部】	(単位：円)
会費収入	4,500,000
補助金事業収入	4,291,000
受託金収入	3,960,000
寄付金収入	6,800,000
雑収入	1,115,000
積立金組入	3,200,000
当期収入合計	23,866,000
【支出の部】	(単位：円)
人件費支出	8,388,805
事務費支出	14,491,537
予備費	985,658
当期支出合計	23,866,000

千葉県いのちの電話協会

「千葉県いのちの電話協会」は社会福祉法人千葉県いのちの電話の後援会です。

千葉県いのちの電話の財政的支援を主として各種支援事業（活動ボランティアによる手づくり作品の販売・チャリティーバザーなど）を行っており、年2回開催するコンサートは収益事業であると共に、幅広く地域の皆様に千葉県いのちの電話の活動にご理解とご支援をお願いする広報活動でもあります。1990年10月の結成から35年目を迎えることができ、これまでご支援を頂いた皆様には深く感謝申し上げます。

- ◆お陰様で昨年度は、第22回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート「ナターシャ・グジー」および第33回千葉県いのちの電話チャリティーコンサート「小野リサ」を無事開催することができました。

バザー・手づくり会では、声の花束（視覚障がい者支援チャリティーコンサート）、ニューオリンズジャズフェスティバル、千葉刑務所矯正展に出店しました。内部販売では、皆様よりバザー品の提供やコンビナート内工場より食品寄贈がありました。

- ◆イオン社会貢献事業「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加

2009年3月より、イオンマリンピア店（稲毛海岸）にて応募・登録・参加しております。このキャンペーンは活動団体の中から、購買者が指示する団体に黄色いレシート（毎月11日発行）を提供、年度末にその金額合計の1%が各団体へ（株）イオン様よりイオンギフトカードとして贈呈される仕組みです。2025年度は36,900円（累計822,300円）のご支援をいただきました。昨年度からは黄色いレシート対象店舗がマリンピア店（稲毛海岸）1店舗のみとなりました。

2026（令和8）年度 コンサートのご案内

- ◆ 第23回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート
6月13日（土）千葉市文化センター アートホール
「ワイプロ・ステージ THE LIVE 2026」
- ◆ 第34回千葉県いのちの電話チャリティーコンサート
11月28日（土）千葉市民会館 大ホール
「いのちの電話 トワエモワ コンサート2026」

■大口団体寄付（3万円以上）をありがとうございました。

敬称略

千葉銀行 千葉興業銀行 千葉信用金庫

社会福祉法人千葉いのちの電話 役員名簿（敬称略） 2026（令和8）年6月1日

顧問

佐藤 甫 夫	元千葉大学医学部 名誉教授	山口 光 治	淑徳大学 学長
長谷川 匡 俊	学校法人大乗淑徳学園 理事長		

理事長

友田 直 人	元・社会福祉法人 千葉ベタニヤホーム 理事長
--------	---------------------------

理事

佐藤 俊 一	NPO法人 スピリチュアルケア 研究会ちば 理事長	松崎 泰 子	元淑徳大学 教授
斎藤 浩 一	千葉いのちの電話 事務局長	三橋 和 弘	社会福祉法人 一粒会 監事
清水 新 二	奈良女子大学 名誉教授		一般社団法人 日本いのちの 電話連盟 監事
高橋 宏 子	千葉いのちの電話ボランティア 千葉県精神保健福祉センター センター長	中村 博 子	愛国学院大学 人間文化学部 教授
林 倬 明			

監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長	裕本 守 次	NPO法人 キッズパレット 昭和小放課後児童クラブ館長
------	-------------	--------	--------------------------------

評議員

青木 一 芳	千葉YMCA 理事	南 久 志	公益財団法人 千葉市保健医療 事業団 常務理事兼事務局長
因幡 和 久	医療法人 グリーンエミネンス 中村古峽記念病院 看護師長	長谷川 仁	一般社団法人 生命保険協会 千葉県協会 事務局長
今井 一 雄	今井法律事務所 弁護士		
佐藤 誠	NPO法人 千葉県精神障害者・ 家族会連合会 副理事長	福田 浩 子	公益社団法人 千葉県看護協会 常任理事
岸 憲 秀	千葉YMCA 理事長	花崎 みさを	社会福祉法人 一粒会 理事長
鈴木 鉄 也	千葉県社会福祉協議会 事務局次長	宮崎 弘 志	前一般社団法人 千葉県労働者 福祉協議会 常務理事
永 富 博 之	日本労働組合総連合会 千葉県連合会 会長	富田 薫	社会福祉法人 千葉市社会福祉 協議会 常務理事兼事務局長
武内 貢 一	社会福祉法人 千葉県共同 募金会 常務理事	吉松 靖 子	元千葉いのちの電話ボランティア

研修専門家部会

上田 将 史	NPO法人 志木市精神保健 福祉をすすめる会 理事長	末松 涉	日本いのちの電話連盟 前研修委員長
木村 登紀子	聖路加国際大学 名誉教授 桜クリニック 臨床心理士	西浦 加代子	元ルーテル学院大学付属 PGCカウンセラー
佐藤 俊 一	NPO法人 スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長		

千葉県いのちの電話協会（後援会） 役員名簿（敬称略） 2026（令和8）年7月1日

顧問

白井日出男	元衆議院議員	青柳俊一	千葉興業銀行 取締役会長
牧之瀬孝	千葉銀行 取締役常務執行役員	宮澤英男	千葉信用金庫 理事長
綿貫弘一	京葉銀行 相談役	中元広之	千葉日报社 代表取締役社長

相談役

阿部紘一	千葉県議会議員	堀江はつ	元千葉県議会議員
小川善之	千葉県議会議員	米持克彦	千葉市議会議員
田嶋要	衆議院議員		

名誉会長

安田敬一	公益財団法人安田教育振興会 理事長
------	----------------------

会長

橋本妊寿奈	元成田ユネスコ協会婦人部長
-------	---------------

副会長

鈴木和成	鈴木測量株式会社 取締役会長	吉成庸子	作家・エッセイスト
島田行信	学校法人市川学園 理事		

理事

天野和子	千葉いのちの電話活動ボランティア	齊藤朝江子	有限会社エダブン 代表取締役
新井隆太	新井総合施設株式会社 代表取締役社長	重宗光子	千葉いのちの電話相談ボランティア
遠藤宏之	株式会社シティハウス 代表取締役	友田直人	千葉いのちの電話 理事長
日下忠文	日下医院 院長		元社会福祉法人千葉ベタニヤホーム 理事長
	元千葉いのちの電話 理事長	豊田重俊	有限会社豊工業 取締役
後藤久	東日本旅客鉄道株式会社 千葉 支社 鉄道事業部 指令・サービス 品質改革ユニット リーダー		

監事

大森薫	大森税理士事務所 所長
-----	-------------

ご支援のお願い

●あなたのご支援を必要としています

千葉いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。24時間365日眠らぬダイヤルの維持や建物管理、研修生の訓練や相談員の継続研修、広報活動などのために、年間約2,000万円の経費が必要となっております。現在、全国の自殺者は警察庁の発表によると令和7年は19,118人、千葉県内では938人で、昨年より15人増えています。「死にたい!」と訴える相談者のこころは、「生きたい! 助けて!」です。その声に寄り添うために、一人でも多くの方に資金ボランティアとして千葉いのちの電話を支えてくださいますようお願い申し上げます。

●ご寄付の税額控除について

千葉いのちの電話では、令和4年10月11日から5年間税額控除が受けられるようになりました。税額控除証明書を領収書と一緒に印刷しておりますので、確定申告の際にはどうぞ活用下さい。詳細は事務局までおたずねください。

●維持会員、寄付者会員になってください

- ◆個人会員 年額1口 2千円 (何口でも)
- ◆団体会員 年額1口 1万円 (何口でも)
- 上記の額を毎年継続して納入して頂ける個人や団体
- ◆寄付者会員 この社会福祉法人の主旨に賛同して頂き、寄付金を納入していただける方、金額は問いません。

《お振込は下記のいずれかをご利用ください》

- ・郵便振替 / 00110-0-366563
<加入者名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話」
- ・銀行振込 / 千葉銀行県庁支店 004 (普) 2115973
京葉銀行本店 080 (普) 8897411
千葉興業銀行千葉支店 111 (普) 6182171
千葉信用金庫本店 001 (普) 0580786
<口座名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話 理事長 友田直人」

社会福祉法人 千葉いのちの電話 事業案内

発行日 2026年7月15日
発行者 理事長 友田直人
事務局 〒260-0012
千葉市中央区本町3-1-16 CIDビル
TEL 043-222-4416
FAX 043-227-6911
<https://www.chiba-inochi.jp>
E-mail ll-chiba@chiba-inochi.jp

エルエル

